

総合空間演出における映像のあり方とワークフロー

PG ぱんだgraphはコンサートや各種イベントにおける音楽と映像、照明による総合的な演出を得意としています。2004年ハシケン全国ツアー、2005福山雅治全国ツアー、自民党立党50年記念党大会などにおいて照明や演奏との高度かつ有機的なコラボレーションを目指した映像制作を行い、いずれも高い評価をいただきました。

昨今、コンサートなどにおいて、映像を使った演出は必要不可欠なものです。アリーナクラスのコンサートでは横幅30mという超巨大映像も当たり前になってきました。しかし、そういった巨大映像の制作ですら、本来同じベクトルへ向けて共同で演出・制作すべき照明やステージデザインとのコラボレーションが十分に行われてきたとはいえません。ゲネプロ等で初めてお互いの制作内容を知るのが現状です。

私たちは照明デザインや舞台セット、音楽、総合演出との作業上の双方向性をより早いプリプロ段階から密に持つべきと考えております。それによってコンサートや各種イベントにおける従来の映像のポジションをより高め、結果的にさらに高いレベルの総合空間演出が可能になるはずで、実際、こういった有機的かつ総合的な演出作業は従来あまりされてきたとは言えず、まだまだ可能性を秘めた分野でもありと考えております。

また、自らも音楽制作をするため、音楽に対する知識や感覚を持ち合わせており、結果、ありがちな独り善がりな映像にならず、「音楽のための映像」、「ステージ演出のための映像」に的確にフォーカスできます。

ぱんだgraphは建築・空間デザイン・グラフィックデザイン・音楽・映像演出等に幅広く精通しており、こういった高品質な総合演出に必要なスキルが十分にあります。

ミュージッククリップ制作

PG ぱんだgraphは自らも音楽制作をします。映像と音楽の融合はあらゆる映像コンテンツにとって本来必須の要素です。映像にとって理想的なBGMを探すのは大変困難であり、そこから映像のための音楽制作を自分たちで行うようになりました。また、プロの楽曲制作者とのコラボレーションも多岐にわたります。その映像コンテンツにとって音楽はどうあるべきなのか・・・。こういった思考やスキルは「楽曲のための映像」にもそのまま当てはまります。その楽曲の世界観を補完するための映像はどういったものなのか？ミュージッククリップはあくまで映像作品でありながら主役は楽曲です。ぱんだgraphは楽曲を読み取るスキル、そこから映像を紡ぎ出す感性、さらにそれを「プロモーションのための作品」へと結実させるバランス感覚を持ち合わせています。

Webデザイン、DVD制作

ぱんだgraphはいわゆるCD-ROMコンテンツ全盛期よりの豊富なインターフェースデザイン経験があります。デザイン性重視による可読性の低下やヒューマンインターフェースとしての機能の欠如を防ぎつつよりよいデザインとユーザビリティの両立を高いレベルで達成します。

各種レンダリング

プロダクトデザインやディスプレイ、店舗デザイン等のプレゼンには多様なCGイメージが必要となることが多く、そういったイメージの出来が結果を大きく左右することも多く見受けられます。時間、予算共に限られた条件の中で高いクオリティのイメージ（場合によっては映像）制作が欠かせません。ぱんだgraphは今まで培ってきたスキルを存分に生かし、短期間にハイクオリティなイメージレンダリングを行う事が出来ます。粗いラフスケッチからイメージを起す事も図面からの精密なモデリングも可能です。

各種映像コンテンツ制作

PG 一口に映像コンテンツといってもその形態や目的は多様です。ぱんだgraphはこれまで企業PV、イベントやライブ、展示会などでの上映用コンテンツ、プレゼン用映像など幅広く制作してきました。どの分野でもそのコンテンツに求められる指向や訴求効果などをしっかり把握する事が重要です。私たちは幅広いスキルから、コンテンツにとって最適なメディア（実写、イラストレーション、CG等）を有機的に組み合わせ効果的な映像を制作することが出来ます。